

事務局

【ILSI Japan 総会】

<p>1, 2 月</p>	<p>平成 30 年通常総会が 2 月 19 日（水）10 時より日本橋公会堂にて開催された。</p> <p>審議事項</p> <p>第 1 号議案 平成 29 年度事業活動報告書案が承認された。 第 2 号議案 平成 29 年度決算報告書案が承認された。 第 3 号議案 平成 30 年度事業活動計画書案が承認された。 第 4 号議案 平成 30 年度収支予算書案が承認された。 第 5 号議案 定款変更 貸借対照表の公告方法追加の件が承認された。 5 つの議案について質問はなかった。</p> <p>報告事項</p> <p>1. 本部総会報告</p> <p>2018 年の ILSI 本部総会の概要を報告。今年は ILSI40 周年の節目に当たり、スローガンである“Science Serving Society”を冠した ILSI Scientific Session が、全支部から選考され、研究成果として発表された。ILSI Japan からは「食品微生物部会」が、MALDI-TOF MS の発表を行った。他に、ガバナンス体制変革のための決議が理事会でなされた。またアジア支部会議を開催し、情報共有と、東京開催の ICN（国際栄養学会議）2021 年においてアジア支部共同のシンポジウム開催を提案した（詳細は、ILSI ウェブサイトを参照下さい）。</p> <p>http://ilsi.org/event/2018-ilsi-annual-meeting/</p> <p>2. 平成 30、31 年役員紹介</p> <p>木村修一理事の退任と他の理事 14 名と監事 2 名の重任を紹介した。</p>
<p>3, 4 月</p>	
<p>5, 6 月</p>	
<p>7, 8 月</p>	
<p>9, 10 月</p>	
<p>11, 12 月</p>	<p>第 6 回理事会が平成 30 年 12 月 21 日（金）に開催された。</p> <p>I. 決議事項</p> <p>議案：① 2018 年度収支見込最終案、② 2019 年度収支予算最終案</p> <p>① 2018 年度収支見込み最終案</p> <p>連結ベースでは、収入 67.6 百万円、支出 73.2 百万円、差引 5.6 百万円の損となる（予算に対して 0.7 百万円の改善）。プロジェクト基金連絡会（後述 PFC と略す）の資金の用途については、11 月 19 日に会長、理事長、桑田副理事長をメンバーとする審査会において各研究会・研究部会の申請案件を審議し、ILSI Japan（以下 Japan）に 0.6 百万円、ILSI Japan CHP（以下 CHP）に 7.9 万円の援助とした。</p> <p>Japan は予算の収支差額より、2.6 百万円改善し、CHP は 1.6 百万円の悪化であるが、その損失には NJPPP（栄養改善事業推進プラットフォーム）関連の経費の前倒し分が 3</p>

百万円程含まれており、これを除くと 1.4 百万円の収支改善となり、連結ベースでは 4 百万円の改善となる。

また PFC の資金の使途については、毎年資金提供の企業には報告することが確認された。

採決したところ、異議なく承認された。

② 2019 年度収支予算最終案

2019 年の収支予算案について連結ベースでは収入 84.1 百万円、支出 87.8 百万円、差引 3.7 百万円の損失となり、前年より損失額は 1.9 百万円減少する。

PFC の資金の使途については、11 月 19 日に前述のメンバーによる審査会にて各研究会・研究部会からの申請案を審議し、Japan の研究部会に 0.9 百万円と「栄養とエイジング」国際会議に 3.0 百万円、CHP に 4.6 百万円とした。

Japan の収入 67.8 百万円、支出 72.0 百万円で、差引 4.1 百万円の損失となる。損失の主な要因は、「栄養とエイジング」国際会議開催費用及び会費収入の減少による。CHP は収入 19.7 百万円、支出 19.2 百万円で差引 0.4 百万円の益となる。この数字には NJPPP 関連費用の前倒しがあり、実質は 2.6 百万円の損失となる。その結果、期末繰越額は、来年度末で連結ベース 82.0 百万円となる予定。

採決したところ、異議なく承認された。

II. 報告／討議事項

1. 研究会活動の活性化

1) 研究会活動の活性化

ア) 栄養とエイジング国際会議

初日、2 日目のプログラム講演者の 9 割が決定した。また、上原記念生命科学財団助成金 1.0 百万円の授与が決定した。

イ) 健康な食事研究会進捗報告

来年 2 月 4 日に全体会議を開催し、支部総会の会場で予定している「進捗報告会」の内容の確認をする。議題の原案の説明があり、最終報告は「栄養とエイジング」国際会議で実施することが報告された。

ウ) 食品安全性評価領域の動物実験代替プロジェクト

今後の進め方について、中江理事のアドバイスを基に、「情報収集」、「情報発信」、「研究推進」の 3 つのフレームワークを設定する。研究推進の重要テーマ「吸収性予測」、「食品データベースの構築」についてはワーキンググループを組織して進める。ILSI Europe と協働して 2020 年 10 月には、アジア・ワークショップ（東京）の開催を検討中。

エ) CHP

Project IDEA は、従来は鉄を使用した栄養改善活動であったが、今後は途上国の栄養バランスの改善をめざすプロジェクト活動として、Project DIET と略称する。カンボジアにおける職場の栄養改善を目的とした活動について、人間総合科学大学の中西先生が 10 月末に現地に出張し、ベースラインスタディを実施した。新たに NJPPP プロジェクトとして、インドネシアの日系企業の職場食堂における栄養改善活動を京都の都（みやこ）給食と共同で実施することが、NJPPP の運営委員会にて承認され、1 月から現地で進めることになった。

島根県の IT 企業が「健康経営」の観点から従業員を対象としてテイクテンのチェックシートを活用した栄養啓発活動等のプログラムを実施する方向となり、島根大学及び当該 IT 企業のパートナーとして、11 月に打合せを実施した。

オ) 会議報告

□ バイオテクノロジー研究会 11/7 ERA 国際ワークショップを開催した。遺伝子組み換え植物の生物多様性影響評価に関するワークショップ、副題 隔離圃場試験のデータトランスピリティに関する考察とし、内外の学者ら 8 名による講演とパネルディスカッションを実施した。

□ 第 9 回「日本くすりと食品機能フォーラム（認定薬剤師研修講座）」を 11/25 に開催。講演演題は、①「緑茶成分と機能性～テアニンと茶カテキンを中心として」太陽化学、② アミノ酸の機能～ロイシン高配合必須アミノ酸と機能性表示食品～味の素。受講者数は 185 名、累計で約 1,000 名に達した。次回は来年 7/28 を予定。

2) ILSI 本部関連報告

2019 年 1 月 8～13 日まで開催の 2019 年本部総会のプログラムサマリーを紹介。理事会・総会については、チェアマンの交代があり、ガバナンス面の本部理事会構成員の役割定義と実現の実施プロセスの検討をする。

サイエンス・プログラムとして、テーマの説明と 6 セッション構成の内容を説明した。

日本からは東京大学の生命環境科学系助教授の笹井浩行先生に講演いただく。

3) 支部総会次第案

・日時・場所 2019 年 2 月 21 日（木）午前 10:00～11:30

日本橋公会堂（日本橋蛸殻町）

・議事 ①2018 年事業活動報告、②2018 年決算報告、③2019 年事業活動計画、④2019 年収支予算。

・報告 本部総会報告

【事務局】

1, 2 月	事務局次長として貢献された太田裕見氏が、2 月末で退職。
3, 4 月	4 月より、キリン(株)OB の横向慶子氏が事務局次長として就任、「栄養とエイジング国際会議」、「健康な食事研究会」を担当。同じく花王(株)より中村英世氏が事務局次長に就任、本部のガバナンス強化対応、支部交流業務を担当。
5, 6 月	特定非営利活動促進法の改正による、貸借対照表の公告の義務化に伴い、昨年度の貸借対照表を 6 月 22 日に弊機構のホームページ上に掲載。
7, 8 月	7 月 1 日付にて事務局長が、花王(株)より出向の宇津敦氏から、次長の花王(株)中村英世氏に交代。 7 月 2 日付にて味の素(株)より出向の取出恭彦氏が事務局次長に就任、戸上理事の CHP 代表の後任となる。
9, 10 月	特になし
11, 12 月	11 月 30 日付にて、キッコーマン(株)から出向の杉崎祐司氏が退職。12 月 3 日付にて、キッコーマン(株)の小幡明雄氏が事務局次長として就任した。

【理事会】

1, 2 月	<p>○第 1 回理事会が、平成 30 年 2 月 6 日（火）に開催された。</p> <p>決議事項 (総会議案)</p> <ol style="list-style-type: none">1. 平成 29 年度活動報告書案 各研究会、研究部会ごとに活動計画の要点を説明した。質問なく承認された。2. 平成 29 年決算報告書案 ILSI Japan の黒字の収支差額と ILSI Japan CHP の赤字の収支差額を連結すると、65 万円の黒字となった原因を説明した。質問なく承認された。3. 平成 30 年度活動計画書案 各研究会、研究部会ごとに活動計画の要点を説明した。質問なく承認された。4. 平成 30 年度収支予算書案 ILSI Japan の収支が、東大寄付講座の終了等により赤字となること、ILSI Japan CHP の収支について企業サポートの縮小等に対処すべく、企業以外のドナーを見込んだ予算を組んだが、若干の赤字となることを説明した。数字に関して質問はなく、収支改善のための議論をし、承認された。5. 定款の変更・貸借対照表の公告方法追加 NPO 法人の法律が改正され、毎年の貸借対照表をネットや新聞等で公開する必要性が生じたので、ILSI Japan として、当機構のホームページに掲載することと、それを定款に記載することの提案を説明した。意見なく、全員が承認した。 <p>報告</p> <p>支部総会報告事項</p> <ol style="list-style-type: none">① 本部総会報告 今年 40 周年の節目に当たり、スローガンである“Science Serving Society”を冠した ILSI Scientific Session が、全支部から募集・選考された研究成果発表で構成された。日本支部から成果発表をした。② 平成 30、31 年の次期役員候補 木村修一理事が退任し、他の理事 14 名かつ監事 2 名は重任することを全理事が承認した。 <p>○第 2 回理事会が、2 月 25 日（日）に開催された。</p> <p>決議事項</p> <p>第 1 号議案 理事長選出 安川拓次理事が推薦され、満場一致で承認され、本人は即時に受諾した。</p> <p>第 2 号議案 会長選出 宮澤陽夫理事が選出され、本人は受諾した。</p> <p>第 3 号議案 副理事長選出 桑田有理事、木村毅理事、坂田隆理事、谷口茂理事が選出され、受諾した。</p> <p>第 4 号議案 理事長代理人の選出 理事長に事故があるとき、または理事長が欠けたときに職務を代行する副理事長として、木村毅副理事長が選出され、受諾した。</p>
3, 4 月	<p>○第 3 回理事会が、平成 30 年 4 月 27 日（金）に開催された。</p>

<決議事項>

1. Scientific Integrity Principles 採択

「食品科学と栄養研究への資金拠出に関する原則」を採択した。ILSI Japan メンバーすべてが順守することが求められる。

2. イルシー誌在庫処分

災害時備蓄食料の保管場所がなく 10 冊ずつ残し、廃棄することを提案した。損益への影響は、2.5 百万円。質疑応答の末、承認された。

<討議事項>

1. 研究会活動の活性化

ア) 健康な食事研究会状況報告

2 月 19 日に日本橋公会堂にて研究会発足から 1 年後の成果を各ワーキンググループより報告。同時に栄養改善学会の取組み、「健康な食事・食環境認証制度（スマートミール）」の紹介を行った。また各 WG の 3 月、4 月に開催した会議内容の報告をした。

イ) 寄付講座の今後について

来年の 3 月末にて第Ⅲ期が終了する。総括シンポジウムを本年 9 月 18 日に開催予定。開催時の構想と成果を整理して、歴史を冷静に振り返ること。個々のテーマと寄付講座のつながりを明確にする予定。

ウ) 動物試験代替タスクフォース

国立医薬品食品衛生研究所との協働を取り付けたこと、食品リスク研究部会にて日本の法規情報を整理し 6 月末までに ILSI Europe に提出すること等を報告。

エ) 栄養とエイジング国際会議準備

開催予定日は 2019 年 10 月 1~2 日、予定会場は東京大学農学部弥生講堂一条ホール。プログラム委員会初の会議を行い、全体のコンセプトや議論内容を説明した。それを整理して理事に書面で配付し、7 月の理事会では、意見をいただき最終とする。その前に過去の予実算の実績等、データを整理して、組織委員会を開催する。そこで下部の委員会（プログラム以外の財務、広報、レセプション、総務）を決める予定。近日中に開催。

オ) BeSeTo 会議の計画

日程は、今年 9 月 13~14 日、場所は、台北にて。サテライトシンポジウムのテーマ、構成については意見を提出済み。スピーカーの選定を急ぐ必要あり。会議のプログラム枠組みは、従来と同じで、ILSI Japan からの発表候補に、NGS、MALDI/TOFMS、「日本くすりと食品機能フォーラム」を入れる方向で検討中。

カ) 研究会・研究部会への活動支援スケジュール

昨年に引き続き、研究会・研究部会への資金支援行う。今年の日程を説明した。

2. 本部関連報告・総会時の Scientific Program

今年は北米と RF が開催したが、来年以降、ILSI 全体で開催し、オープンシンポジウムとする。来年の 6 つのセッションのうち、3 つを北米以外の支部が担当。全体のテーマは“Brave New World in Nutrition & Food Safety”。エントリー募集があり、ILSI Japan から“Technologies for Improving Accuracy of Dietary and Physical Activity Assessment”を案として提出した。

5, 6 月	開催なし。
7, 8 月	<p>○第4回理事会が、平成30年7月24日（火）に開催された。</p> <p><決議事項> 今回なし。</p> <p><報告／討議事項></p> <p>1. 研究会活動の活性化</p> <p>ア) 「栄養とエイジング」国際会議 企画案 ①趣意書、②プログラム及び講演者、③投稿ジャーナル、④助成団体の内容が説明され、それぞれ議論された。</p> <p>イ) 健康な食事研究会進捗報告 全体会議と各WGの活動報告と今後の予定を説明。</p> <p>ウ) 寄付講座総括シンポジウム 9月18日（火）に東大の弥生講堂にて、寄付講座の総括シンポジウムを開催する予定。タイトル（案）は「機能性食品科学の基礎研究から開発研究の統合的成果と新たな息吹き」。</p> <p>エ) 動物試験代替タスクフォース 「ILSI Japan 食品安全領域の動物実験代替法の推進プロジェクト（略称 ILSI Japan AAT プロジェクト）」を発足予定（9月～）。 ILSI Europe が9月に開催するワークショップに AAT プロジェクトから参加予定。</p> <p>オ) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年の BeSeTo 会議 台北にて、9/13～14 にて開催。 日本から山口大学の豊福先生に講演していただく予定。 ・NGS プロジェクト ILSI Europe と “Food Microbiology” へ共同投稿 2019年春 公開シンポジウム開催予定。 ・バイオテクノロジー研究会。ERA ワークショップを11月開催予定。 <p>2. ILSI 本部関連報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガバナンス強化 ILSI 総会の構成及び理事選任方法の見直し、及び理事構成の見直し。 ・2019年総会時のサイエンティフィック・プログラムは北米が3セッション、他支部が3セッションを企画し、外部へオープンなセッションを開催予定。 <p>3. 戸上理事の CHP 代表退任のご挨拶</p>
9, 10 月	<p>○第5回理事会が、平成30年10月19日（金）に開催された。</p> <p><決議事項> 今回なし。</p> <p><報告・討議事項></p> <p>1. 研究会活動の活性化</p> <p>ア) 栄養とエイジング国際会議</p>

	<p>趣意書を会員企業に配信し現在 18 社が参加する予定。</p> <p>イ) 健康な食事研究会進捗報告 第 6 回全体会議 (9/10) でのワーキンググループごとの活動内容について報告した。</p> <p>ウ) 食品安全性評価領域の動物実験代替プロジェクト 10/2 にキックオフ会議を開催し、参加企業数は 14 社となった。内容としては、ILSI Europe が 9 月に開催したワークショップの内容報告、今後の予定等を情報共有した。</p> <p>エ) CHP 途上国の栄養改善について、NJPPP (栄養改善事業推進プラットフォーム) のプロジェクトとして、カンボジアにおける職場の栄養改善を目的とした活動を、人間総合科学大学、カンボジアの NGO (RACHA) らと共同スタディとして立ち上げた。栄養教育に TAKE10!® を活用する予定。また TAKE10!® の活動 (墨田区受託事業 14 年目のスタート、島根県吉賀町受託事業、石巻専修大学学生による普及支援等) について報告した。</p> <p>オ) 会議実績報告と今後開催の会議連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 第 9 回 ILSI Japan ライフサイエンスシンポジウム「健康寿命の延伸につなげる栄養科学と運動科学の融合」を 7/26 に東大弥生講堂にて開催。 ● 第 8 回「日本くすりと食品機能フォーラム (認定薬剤師研修講座)」を 7/29 に開催した。講演演題は、①「大豆タンパク質の補完医療としての役割」不二製油 G 本社、②還元型コエンザイム Q10 の生理活用～抗疲労・抗酸化・エネルギー産生 (株) カネカ。 ● BeSeTo 会議 9/13～14 台北にて開催。日本から山口大学の豊福先生に「国際食品規格の微生物学的基準のガイドライン、微生物学的基準とリスクマネジメントの実例と日本での微生物学的基準の更新内容」と題し、講演いただいた。 ● 東京大学主催の寄付講座総括シンポジウムを、9/18 に開催。2019 年 3 月で、3 期 15 年の ILSI 寄付講座が終了。その成果と課題が浮き彫りになり、次の方向性が明確になる場とした。 ● バイオテクノロジー研究会 11/7～8 に ERA 国際ワークショップを開催予定。 <p>2. 2018 年収支見込、2019 年収支予算第 1 次案 当年の収支見込は、連結ベース (ILSI Japan と CHP の合算) では、予算の収支より良くなる予定。しかし、収入に不確実な点があり、確認中。 来年の収支は、「栄養とエイジング」国際会議の開催年に当たり、収支の悪化は避けられない状況であるが、なるべく収支差額の赤字を小さくし、確実なところを予算に反映するよう計画する。</p> <p>3. ILSI 本部関連報告 8/22 に本部理事会が開催され、MANDATORY POLICY を改変し、すべての方針を統合、一元化することが決議された。各支部に順守義務がある。</p> <p>4. 外部連携 宮澤会長より配付資料に基づき、東北大学未来科学技術共同研究センター (NICHe) のもとに計画する、戦略的食品バイオ未来産業拠点の構築について説明があった。</p>
11, 12 月	